

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-111219

(P2014-111219A)

(43) 公開日 平成26年6月19日(2014.6.19)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 C 7/64 (2006.01)	A 4 7 C 7/64 A	3 B 0 8 4
A 4 7 C 7/38 (2006.01)	A 4 7 C 7/38	

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2014-59725 (P2014-59725)	(71) 出願人	000139780
(22) 出願日	平成26年3月24日 (2014.3.24)		株式会社イトーキ
(62) 分割の表示	特願2009-295339 (P2009-295339)		大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号
	の分割		
原出願日	平成21年12月25日 (2009.12.25)	(74) 代理人	100099966
			弁理士 西 博幸
		(74) 代理人	100134751
			弁理士 渡辺 隆一
		(72) 発明者	岩淵 浩
			大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株
			式会社イトーキ内
		Fターム(参考)	3B084 DA03

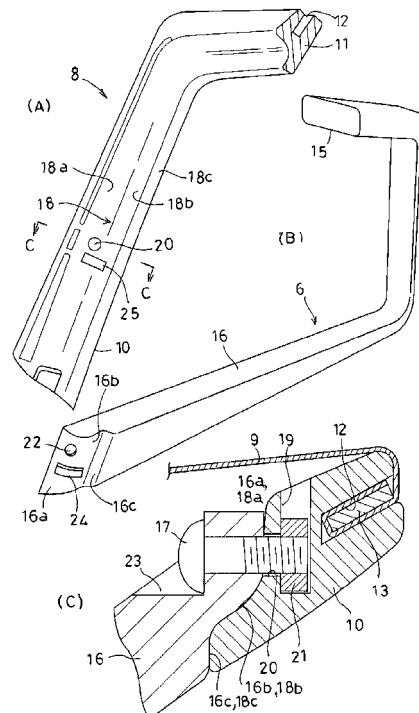
(54) 【発明の名称】 椅子

(57) 【要約】

【課題】背もたれを構成するバックフレームにハンガーを固定している椅子において、汎用性や強度に優れたハンガー取付け構造を提供する。

【解決手段】バックフレーム8はサイドメンバー10を有しており、サイドメンバー10の外側面にはサポートシート9を取り付けるための長溝12が形成されている。ハンガー6はバー部15と左右の足体16とを有しており、足体16の下端部がサイドメンバー10の内側面にビス17で固定されている。サイドメンバー10の内側面には凹所18が形成されており、ハンガー6の足体16は凹所18にきっちり嵌まっている。サポートシート9の取付け構造には関係なくサイドメンバー10の内側面は露出していることが殆どであるため、適用対象が広くて汎用性が高い。凹所18と嵌め合わせて固定できるため、高い締結強度も確保できる。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

背もたれとこれに取付けたハンガーとを有しており、

前記背もたれは、着座者の体圧を支持するサポート体が直接に又は間接的に取付けられたバックフレームを有しており、前記バックフレームは、上下長手の左右サイドメンバーとその上端に繋がった左右横長のアップパーメンバーとを有する形態である一方、

前記ハンガーは、前記バックフレームのサイドメンバーに固定された左右の足体と、前記足体の上端に設けた左右横長のバー部とを有している、椅子。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】**【0001】**

本願発明は、背もたれにハンガーを取り付けた椅子に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

椅子において、背もたれに衣服やタオルなどを掛けるハンガーを取り付けることが行われている。ハンガーの形態は様々であり、また、背もたれへのハンガーの取付け構造も様々である。例えば特許文献 1，2 には、正面視略四角形のバックフレームを有する背もたれにハンガーを取り付ける構造として、バックフレームの上端を構成する左右横長のアップパーメンバーにハンガーを固定することが開示されている。

20

【0003】

特許文献 1，2 とも着座者の体圧はメッシュ材のような可撓性を有するシート材で受けられるようになっており、特許文献 1 では、背もたれが取付けられるバックフレームの手前に背フレームを配置し、この背フレームにシート材を張っている。そして、ハンガーにおける足体の下端部をバックフレームにおけるアップパーメンバーの前面に重ねて、アップパーメンバーに後ろから重ねた取付部材を足体に締結している。すなわち、足体の下端部と取付部材とでアップパーメンバーを前後から挟み付けている。

【0004】

他方、特許文献 2 ではシート材はバックフレームに直接に取付けられている。すなわち、バックフレームの外周面に長溝を形成する一方、シート材の外周縁にテープ状の縁部材を固定し、縁部材を長溝に嵌め込むことでシート材をバックフレームに取り付けている。そして、ハンガーの足体をバックフレームのアップパーメンバーに上から重ねて、アップパーメンバーに下方から重なった挟持片を足部にねじで締結している。つまり、特許文献 2 では、バックフレームのアップパーメンバーをハンガーの足体と挟持片とで上下から挟み付けている。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】特開 2004 - 351118 号公報

【特許文献 2】特開 2008 - 104521 号公報

40

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0006】**

特許文献 1 では、バックフレームはその前面も露出しているため、アップパーメンバーをハンガーと取付部材とで前後から挟持しているが、バックフレームにシート材を直接に取り付けている場合はこのような構造は採用できない。従って、適用対象が限られて汎用性が低いという問題がある。

【0007】

他方、特許文献 2 では、バックフレームにシート材を取り付けられていてもハンガーを取り付けることができるが、着座者の身体（背中）がハンガーの足体に当たるおそれがある。

50

るという問題がある。また、ハンガーをしっかりと固定するにはバックフレームのアップパーメンバーはできるだけ太くせねばならず、すると美感の悪化にもつながりかねない。

【 0 0 0 8 】

本願発明は、このような現状を改善すべく成されたものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

本願発明は、背もたれとこれに取付けたハンガーとを有する椅子に関する。この椅子において、請求項 1 の発明では、前記背もたれは、着座者の体圧を支持するサポート体が直接に又は間接的に取付けられたバックフレームを有しており、前記バックフレームは、上下長手の左右サイドメンバーとその上端に繋がった左右横長のアップパーメンバーとを有する形態である一方、前記ハンガーは、前記バックフレームのサイドメンバーに固定された左右の足体と、前記足体の上端に設けた左右横長のバー部とを有している。

10

【 0 0 1 0 】

請求項 2 の発明は、請求項 1 において、前記ハンガーにおける足体の下端部を前記バックフレームにおけるサイドメンバーの内側面にビスで固定している。請求項 3 の発明は、請求項 2 において、前記バックフレームにおけるサイドメンバーの前面には前記サポート体が重なっており、更に、前記バックフレームにおけるサイドメンバーの内側面のうち少なくともハンガーの足体が固定される部分は、当該サイドメンバーの外側面に向けて凹んだ凹所になっており、この凹所に前記足体の下端部を嵌合させている。

【発明の効果】

20

【 0 0 1 1 】

本願発明では、ハンガーはバックフレームのサイドメンバーに固定するものであるため、バックフレームの前面にシート状等のサポート体が重なった構造であっても適用できる。従って、適用対象が広くて汎用性に優れている。また、バックフレームのアップパーメンバーとハンガーとの間に間隔を空けることも容易の実現できるため、人の身体がハンガーに当たることも的確に防止できる。従って、使い勝手もよい。

【 0 0 1 2 】

ハンガーの足体は例えばサイドメンバーの後面に固定することも可能であるが、請求項 2 のようにサイドメンバーの内側面に固定すると、ハンガーの足体が目立つことを防止できるため、美感に優れている。特に、請求項 3 のようにサイドメンバーに凹所を設けてこれにハンガーの足体を嵌合させると、ハンガーの固定部を隠すことができて美感を一層高め得ると共に、足体がしっかりと位置決めされるため高い固定強度を確保できる利点がある。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

【図 1】実施形態に係る椅子の外観図であり、(A) はハンガーを取付けていない状態での斜視図、(B) はハンガーを取付けた状態での側面図である。

【図 2】正面図である。

【図 3】(A) はハンガーを前から見た斜視図、(B) はハンガーを後ろから見た斜視図である。

40

【図 4】サイドメンバーを破断して示した分離斜視図である。

【図 5】(A) はバックフレームの部分斜視図、(B) はハンガーの側面図、(C) はハンガーを取り付けた状態での(A)の C - C 視断面図である。

【図 6】アップパーメンバーにヘッドレストを取付けた状態を示す図で、(A) は正面図、(B) は平面図、(C) は縦断側面図である。

【図 7】ヘッドレストの取付け構造を示す図で、(A) は上前方から見た破断斜視図、(B) は後ろ下方から見た破断斜視図、(C) は前下方から見た破断斜視図である。

【図 8】(A) はアップパーメンバーの破断斜視図、(B) はヘッドレストの下部を上前方から見た斜視図、(C) はヘッドレストの下部を下方から見た斜視図である。

【発明を実施するための形態】

50

【 0 0 1 4 】

次に、本願発明の実施形態を図面に基づいて説明する。本実施形態は、事務用に多用されている回転椅子に適用している。以下の説明では方向を特定するための「前後」「左右」の文言を使用するが、これら前後・左右の方向は、普通に着座した状態の人の向きを基準にしている。

【 0 0 1 5 】

(1). 椅子の概要・ハンガーとその取付け構造

図 1, 2 に示すように、椅子は、主要要素として、脚支柱 2 (ガスシリンダ) を有する脚装置 1、脚支柱 2 の上端に固定されたベース 3、ベース 3 の上方に配置された座 4、背もたれ 5 を備えている。背もたれ 5 に樹脂製のハンガー 6 を取付けている。脚 1 は放射状に伸びる複数本の枝足 (一部しか表示していない) を備えており、各枝足の先端にはキャスタを設けている。ベース 3 に背支持フレーム 7 が後傾動自在に連結されている。

【 0 0 1 6 】

背もたれ 5 は、バックフレーム 8 にメッシュ状で可撓性を有するサポートシート 9 を張った構造になっている。バックフレーム 8 は樹脂の成形品であり、上下方向に長く伸びる左右サイドメンバー 10 と、左右サイドメンバー 10 の上端に繋がったアッパーメンバー 11 と、左右サイドメンバー 10 の下端に繋がったロアメンバー (図示せず) とから成っている。従って、バックフレーム 8 は正面視で略四角形の形態を成している。そして、背支持フレーム 7 の後端に支柱部 7a を設け、この支柱部 7a にバックフレーム 8 のサイドメンバー 10 をねじで締結している。

【 0 0 1 7 】

例えば図 5 (A) (C) に示すように、バックフレーム 8 の外周 (各メンバーの外周) には長溝 12 が形成されている一方、サポートシート 9 の外周縁には帯状の縁部材 13 が固定されており、縁部材 13 を長溝 12 に嵌め入れている。従って、サポートシート 9 はバックフレーム 8 の前端面に重なっている。

【 0 0 1 8 】

ハンガー 6 は、衣服やタオルなどの物品を掛ける作用横長のバー部 15 と、このバー部 15 から下向きに伸びる左右一対の足体 16 とで構成されている。足体 16 はバー部 15 の左右中間に近い部分から下向きに延びて左右外側に広がっており、足体 16 の下端部がバックフレーム 8 におけるサイドメンバー 10 の内側面にビス 17 で固定されている。ハンガー 6 の足体 16 は、サイドメンバー 10 のうち上端に近い部分に固定されている。

【 0 0 1 9 】

図 4 及び図 5 (C) に明瞭に示すように、バックフレーム 8 におけるサイドメンバー 10 の内側面には、上側寄りの範囲に、前方及び内側に開口した凹所 18 が形成されており、この凹所 18 の下部にハンガー 6 の足体 16 が固定されている。凹所 18 は内側面 18a と背面 18b とを有しており、背面 18b はサイドメンバー 10 の内側縁 18c に連続している。

【 0 0 2 0 】

一方、ハンガー 6 における足体 16 の下端面は、凹所 18 にきっちり嵌まると共にサイドメンバー 10 の内側縁 18c にも重なるように形成されている。すなわち、足体 16 の下端面は、凹所 18 の内側面 18a に重なる第 1 面 16a と、凹所 18 の背面 18b に重なる第 2 面 16b と、サイドメンバー 10 の内側縁 18c に重なる第 3 面 16c とを有している。このため、全体として段違いのような外観を呈している。

【 0 0 2 1 】

そして、バックフレーム 8 のサイドメンバー 10 に、前向きに開口したナット保持穴 19 と、ナット保持穴 19 に連通して凹所 18 の内側面 18a に開口したビス穴 20 とを設けて、ナット保持穴 19 にナット 21 を回転不能に嵌め込んでいる。他方、ハンガー 6 における足体 16 の下端部には、ビス 17 が嵌まる取付け穴 22 を設けている。ハンガー 6 の足体 16 は平面視で内側に行くほど後ろにずれるように傾斜している一方、ビス 17 はおおむね左右横長の姿勢になっており、そこで、足体 16 の前面に座ぐり溝 23 を形成し

ている。

【 0 0 2 2 】

足体 1 6 の下端面のうち取付け穴 2 2 の下方部には、第 1 面 1 6 a と第 2 面 1 6 b とに跨がって延びる突起 2 4 を設けている一方、サイドメンバー 1 0 の凹所 1 8 には、突起 2 4 が嵌まる係合溝 2 5 を形成している。足体 1 6 の下端面がサイドメンバー 1 0 の凹所 1 8 と内側縁 1 8 c とに重なっていることに加えて、足体 1 6 の突起 2 4 がサイドメンバー 1 0 の係合溝 2 5 に嵌合しているため、足体 1 6 はサイドメンバー 1 0 に対してしっかりと固定されている。

【 0 0 2 3 】

また、既述のようにビス 1 7 の頭は足体 1 6 の前面に形成した座ぐり溝 2 3 に位置しており、このためビス 1 7 の頭を椅子の後ろから視認することはできず、他方、足体 1 6 の手前にはサポートシート 9 が配置されているため、ビス 1 7 の頭は前から視認できない（或いは視認し難い。）。このため、ハンガー 6 は恰もサイドメンバー 1 0 に一体成形されているかのような外観を呈することができ、このため美感に優れている。また、ナット保持穴 1 9 も全く又は殆ど視認できず、この面でも美感に優れている。

【 0 0 2 4 】

ハンガー 6 の足体 1 6 は複数本のビスでサイドメンバー 1 0 に固定することも可能である。また、突起 2 4 と係合溝 2 5 との組み合わせのような位置決め手段は複数対設けることも可能である。更に、凹所 1 8 は内側のみに開口した形態（底面と前面と背面とを有する形態）にすることも可能である。また、左右の足体 1 6 を 1 本に収束してこれをバー部 1 5 に接続することも可能である。

【 0 0 2 5 】

(2). ヘッドレストの取付け構造

図 6 以下の図面に示すように、バックフレーム 8 のアッパーメンバー 1 1 にヘッドレスト 2 7 を取り付けることが可能である。この点を次に説明する。ヘッドレスト 2 7 は樹脂製の基板 2 8 を有している。基板 2 8 はアッパーメンバー 1 1 の左右長さと同じ程度の左右巾寸法に設定されており（左右巾は任意に設定できる）、平面視では前向き凹状に湾曲して側面視では前向き凸状に湾曲している。そして、図 6（C）に示すように、基板 2 8 の前面にクッション材 2 9 を張っている。クッション材 2 9 はクロス等の表皮材で覆われている。

【 0 0 2 6 】

基板 2 8 の下部はアッパーメンバー 1 1 の後ろに位置しており、その下端にはアッパーメンバー 1 1 の下側に位置した前向き張り出し部 3 0 を前向きに突設している。前向き張り出し部 3 0 のうち左右中間部にアッパーメンバー 1 1 に下方から嵌合するセンター受け部 3 1 を設け、前向き張り出し部 3 0 のうち左右両端寄り部位には、アッパーメンバー 1 1 が載るサイド受け部 3 2 を設けている。

【 0 0 2 7 】

センター受け部 3 1 には、アッパーメンバー 1 1 を嵌合させるため、側面視で上向きに開口した係合溝 3 3 を設けている。一方、アッパーメンバー 1 1 には、サイド受け部 3 2 が嵌合する左右一对の切欠き溝 3 4 を形成しており、このため、基板 2 8 が前後及び左右にずれ不能に保持されている。

【 0 0 2 8 】

基板 2 8 の下部及び前向き張り出し部 3 0 には、センター受け部 3 1 とサイド受け部 3 2 との間に位置してアッパーメンバー 1 1 の後面に重なるリア支持部 3 5 を一体に設けており、リア支持部 3 5 にはビス穴 3 7 が上下に貫通している。そして、リア支持部 3 5 の箇所においてアッパーメンバー 1 1 に上からクランプ体 3 7 を重ねており、クランプ体 3 7 に形成したナット保持穴 3 8 にナット（図示せず）を回転不能に嵌め込み、ビス穴 3 6 に下方から挿通したビス（図示せず）をナットにねじ込むことにより、クランプ体 3 7 と前向き張り出し部 3 0 とでアッパーメンバー 1 1 を挟持している。

【 0 0 2 9 】

10

20

30

40

50

例えば図 7 (A) から理解できるように、クランプ体 3 7 にはアッパーメンバー 1 1 に上から嵌合する凹所 3 8 が形成されており、かつ、凹所 3 9 にはアッパーメンバー 1 1 の長溝 1 2 に嵌まるリブ 4 0 を形成している。リブ 4 0 はサポートシート 9 を押圧した状態で長溝 1 2 に嵌まることになる。

【 0 0 3 0 】

さて、特許文献 2 はアッパーメンバー 1 1 を上下から挟持しているが、特許文献 2 ではハンガー 6 の左右位置を位置決めする機能は備えておらず、このため、ハンガーの左右位置が正確に位置決めされないおそれがある。また、特許文献 2 はアッパーメンバーをサポートシートの後ろ側において挟持するものであるため、挟持強度を高くできない可能性がある。

10

【 0 0 3 1 】

これに対して本実施形態では、アッパーメンバー 1 1 に設けた切欠き溝 3 4 で左右位置が正確に位置決めされ、また、アッパーメンバー 1 1 の全体を上下から挟持するものであるため、固定強度にも優れている。なお、本実施形態ではハンガー 6 とヘッドレスト 2 7 とをバックフレーム 8 に併せて取り付けることができる。ハンガー 6 はサイドメンバー 1 0 に固定しているため、ヘッドレスト 2 7 がアッパーメンバー 1 1 の背面に沿って左右に長く延びていても、ハンガー 6 の取付けには全く支障はない。この点も本願発明の利点の一つであると言える。

【 0 0 3 2 】

本願発明は、特許文献 1 のようにバックフレーム 8 で背フレームを支持しているタイプの椅子にも適用できる。また、サポート体はメッシュのようなサポートシートに限定されるものではなく、サポート体として樹脂製背板 (インナーシェル) を使用することも可能である (この場合は前面にクッション材を張ってもよい。) 。

20

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 3 3 】

本願発明は椅子に適用して有用性を発揮する。従って産業上利用できる。

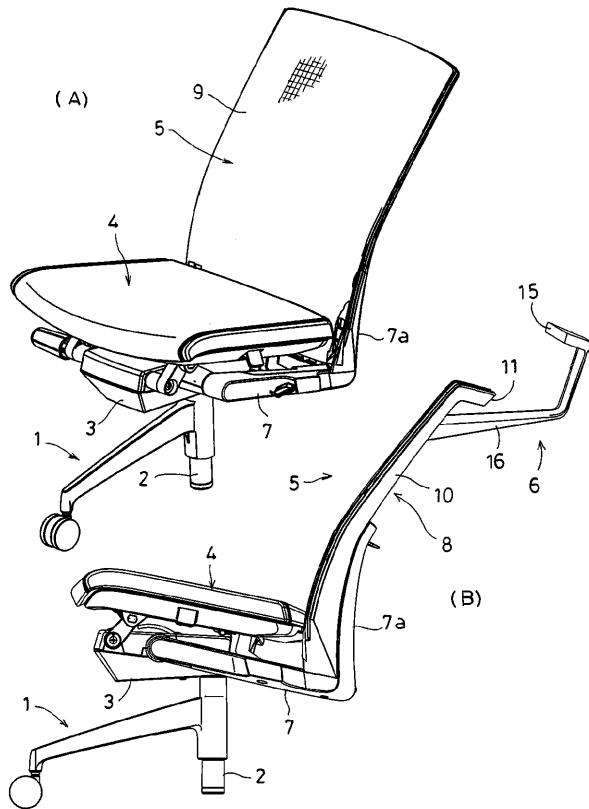
【 符号の説明 】

【 0 0 3 4 】

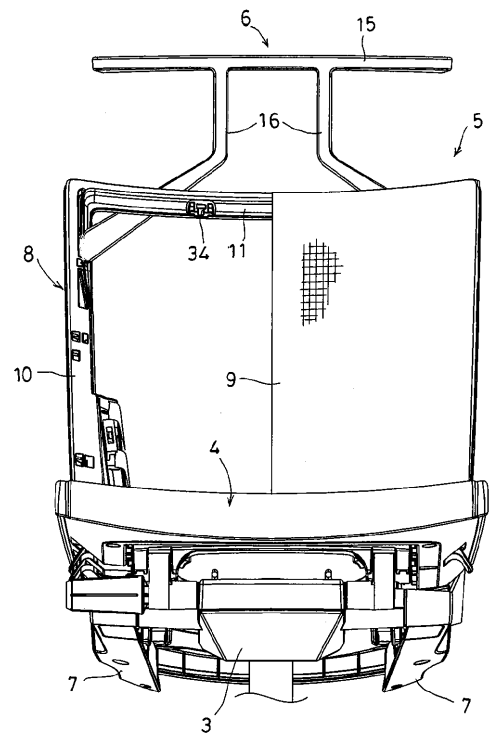
- 5 背もたれ
- 6 ハンガー
- 8 バックフレーム
- 9 サポート体の一例としてのサポートシート
- 1 0 サイドメンバー
- 1 1 アッパーメンバー
- 1 5 ハンガーを構成するバー部
- 1 6 ハンガーを構成する足体
- 1 7 ビス
- 1 8 サイドメンバーの凹所
- 2 7 ヘッドレスト

30

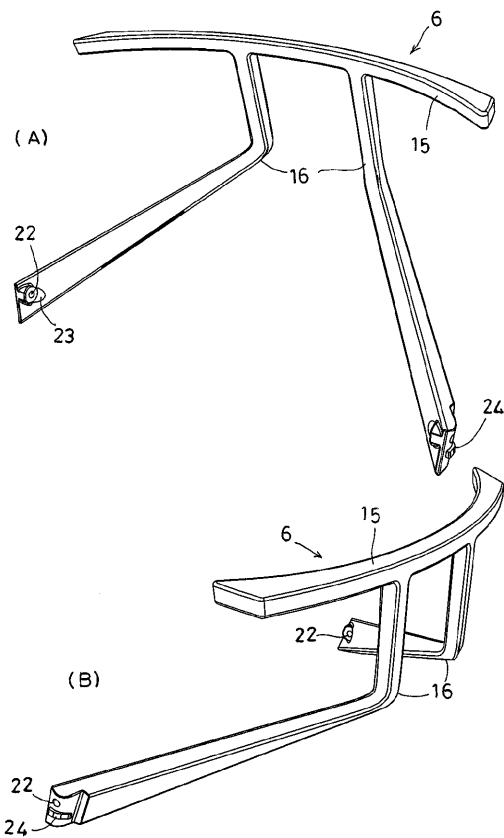
【図 1】



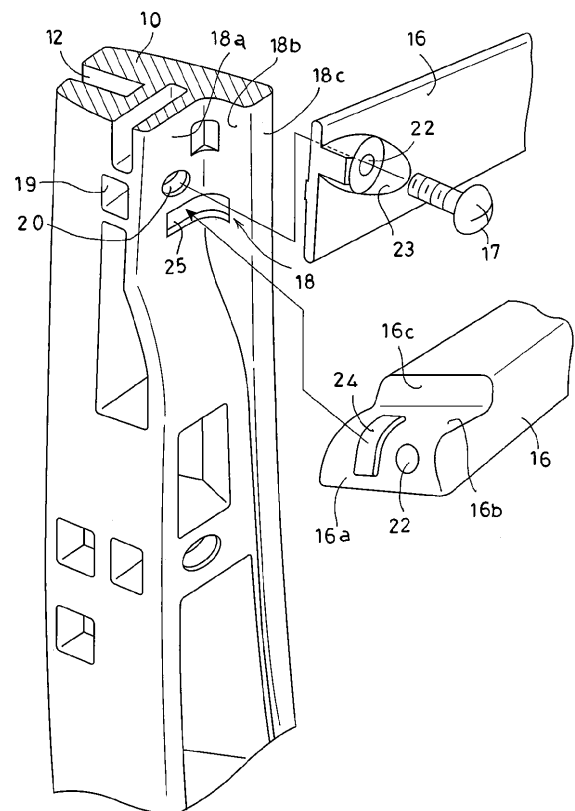
【図 2】



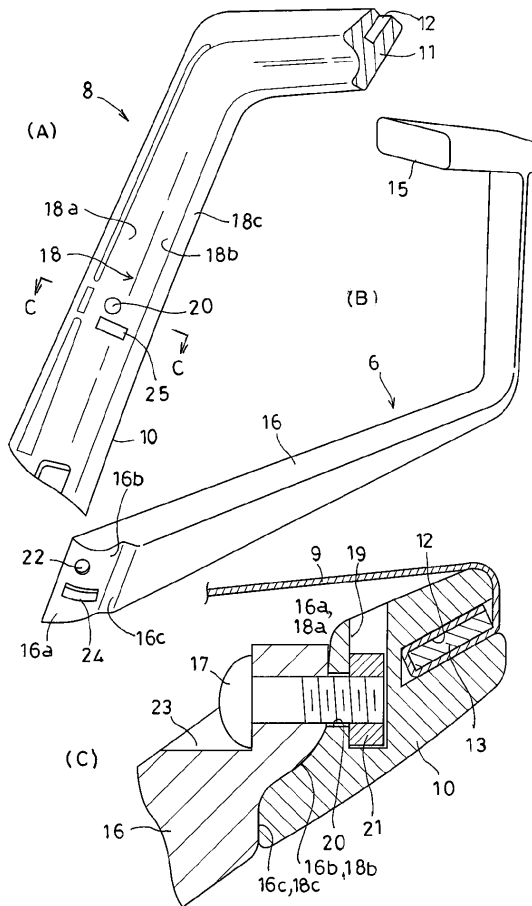
【図 3】



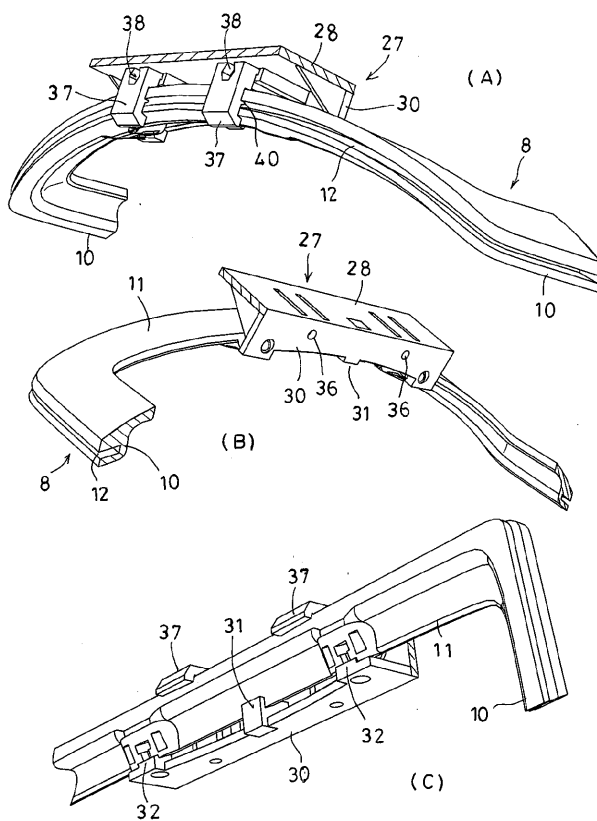
【図 4】



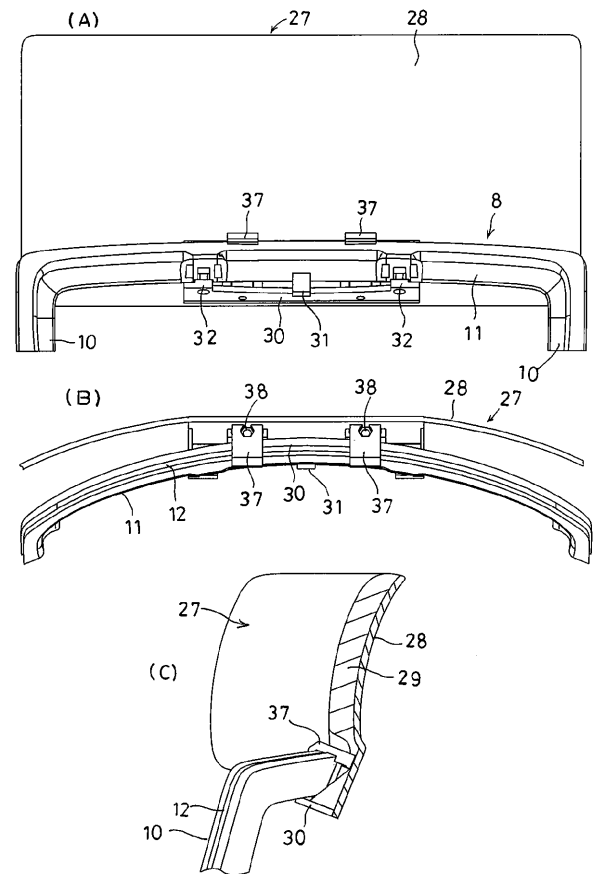
【図 5】



【図 7】



【図 6】



【図 8】

